

## フリー系UNIX (6)

フリー系のUNIXとして「Linux」を中心に特集してきました。最後にフリー系のUNIXの今後について考えてみたいと思います。

まずフリーソフトですが、これまでもいろいろなものがフリーソフトとしてありました。簡単なユーティリティのようなものが始めは中心でしたが、そのうちにゲームがいろいろ登場し、フリーソフトを集めたCD-ROMも発売されるようになってきました。このころのフリーソフトは、どちらかといえばマニアの人がちょっとした物を作ってそれをパソコン通信を通じて発表したものがほとんどでした。そのような中で実用的で、製品の立場をなくすようなものとして出てきたのが設計用のCADソフトの「JW-CAD」です。このソフトは多機能ではなかったものの、2次元CADとしては十分な性能を持つもので、何冊もマニュアル本が出版されています。3次元処理などの高度な機能の必要としない分野では会社で採用しているところもあります。このように始めは自己主張の場であったようなフリーソフトは、いろいろ面白いものはありましたが、その品質となれば保証はなく、コンピュータウィルスへの汚染も考えられなかなか会社としては採用できるものではありませんでした。

それに対して、フリー系のUNIXは、もともとのUNIX自体が教育、研究期間向けにソースコードを含めて無償公開していた経緯もあって、途中から商用のOSとして開発されていく中でフリーのUNIXがいくつも必然的に生まれてきました。このフリーのUNIXは現在ではすでに全世界で数百万から1000万人以上のユーザがいます。そのため、もしおかしいところがあった場合、すぐに修正情報がインターネットを通じて出されるようになってきました。また、サーバ用としてWindows NTと比較した場合、確かにNTにあってフリーUNIXにない機能はありますが、インターネット、イントラネットのサイトで必要とされる機能はすべて満足しているばかりか、ハードウェアトラブル以外でシステムがおちることはほとんどなく、NTよりも安定しているという意見が大勢を占めています。

このような状況で、「Linux」は1つの地位を確保しているということができ、Oracleなどのデータベースや各種アプリケーションがLinux用に開発されています。サーバ用ソフトとしては十分選択肢となりうる状況であるばかりか、サーバはLinux、クライアントはWindowsといったOSの使い分けも今後はシステムを構築するうえで検討する必要があります。いろいろなアプリケーションがLinux対応を宣言している現在、これまでのようなマイクロソフトだけということではなく、選択肢が増えてきたと考えるべきで、OSの使い分けによってマイクロソフトとしては脅威ともなります。これまでのフリーソフトは品質が悪いという概念を取り払い、安定度の高いフリーソフトもあるということを感じておきたいものです。

(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 3月8日号

特集 音楽配信マッタナシ

→インターネットによる音楽の配信が始まろうとしている。まずはインディーズ系のレコード会社が始め、レコード大手5社がその危機感からスタートさせる。サンプルをまずダウンロードし、販売用のものを鍵とともに別にダウンロードすることによって著作権の管理を行う。

解説 非接触型ICカード、「1人1枚」の時代に

→テレホンカードと乗車券がICカード化することによって、非接触のICカードが身近な存在となる。

○日経パソコン 3月8日号

特集 パソコンの魅力は速さだけではない

→これまでのパソコンは、速さを追求してきたが、現在のパソコンはほとんどのソフトを動かすのに十分な性能を持っている。これからのパソコンはスペックだけで選ぶ時代は終わった。

特集 ダイアルアップルータ入門

→これまではモデムやT Aが一般であったものが近頃ルータが一気に身近になっている。そのルータの入門講座。2台以上パソコンがあればルータは絶対に必要となってきた。

○日経オープンシステム 3月号

特集 コストダウンの技術

→クライアントサーバシステムによって、これまでホスト中心であったシステムのサーバ分散化が進んできていた。しかしここきて拠点に配置したサーバの運用コストが増大し、一方回線サービスの高速化、低価格化によって通信回線を多用したWANシステムの構築によるサーバ統合がトレンドになりつつある。システムのコストダウンを考えるうえで現在のトレンドは何か。

特集 Win 9 5 / 9 8 のネットワーク設定

→LANを使う場合設定するコントロールパネルの「ネットワーク」。設定によって他人に迷惑をかける場合や動作が高速になったりもする。間違いない設定をするためのネットワークの基本と設定方法の解説。

○日経マルチメディア 4月号

特集 成果生むインターネット広告

→インターネット上での広告が効果をあげ始めている。96年16億程度であったインターネットの広告費が98年には100億にまで伸び、今後急速な伸びが考えられている。広告会社側も効果の出るサービスを提供している。

特集 新手法「CRM」の勧め

→インターネットで常連のユーザを獲得する「CRM (カスタマ・リレー

ションシップ・マネジメント)」という手法が注目されている。CRMは企業とユーザが長期的で密接な関係を構築することによって常連客を獲得しようとするもので、顧客データベースを充実し、ユーザ別にサービスを提供する。

○PCWAVE 4月号

特集 はじめてのOpenLinux

→新聞や一般週刊誌まで「Linux」の文字が踊る今日。TurboLinux、PlamoLinux、VineLinuxなどラッシュ状態となっている。その中でOpenLinuxを中心にその位置付けを確認する。

○LANTIMES 4月号

特集 ネットワークの今、そしてこれから

→インターネットの浸透によりネットワークはいつその投資を受け変化しつつけている。ネットワークの管理、マルチレイヤスイッチ、WAN、データベースなど今はどうなっているのか、これからはどうなるのか。

特集 ケーブルリングに落とし穴はないか

→ギガビットイーサネットの登場により、より高速で大容量の通信が可能になってきているが、ケーブルにはマルチモードとシングルモードのファイバーが用いられる。ケーブルによって使い方もいろいろあり十分な検討が必要となってきた。

○DOS/V magazine 4月1日号

特集 最強最後のSuper 7!? K6-III登場

→インテルのPentium-IIIに対抗して発表されたK6-III。その性能比較や最新技術。対応するマザーボードカタログ。

特集 ポストPC/100時代の無差別級クロックアップ

→長い66MHzのベースクロックの時代から、100MHzへとアップしたばかりというのに、時代は着実に133MHzへと移ろうとしている。チップセットの発表も目前で、クロックアップへの問題は。

特別 主要5メーカーのコンセプトPCを検証

→時差ではできない各メーカーのコンセプトマシンの紹介。AV対応から省スペース、静粛マシンまで。

